

報道機関各位

2006年11月3日
東北大学大学院農学研究科

仙台で「イネ」国際シンポジウムを開催

(概要)

東北大学は、「イネ科学の最前線 - 遺伝子からフィールドまで」(英文の会議名称「Frontiers in Rice Science - from Gene to Field」)と題し、海外の著名なイネ研究者約10名を招き、仙台で国際シンポジウムを開催する。同大学大学院農学研究科が主催し、仙台国際センター(青葉区青葉山)を会場に11月6~8日の3日間開催する。本シンポジウムの趣旨は、下記のとおり。

1. イネの世界的な研究者を招き、東北大学でこれまでに蓄積された「イネ」に関する研究成果について総括し、今後の研究方向を展望する。
2. 東北大学100周年記念行事の一環とし、海外交流協定校や地域連携機関との研究交流を図る。
3. 学生に英語による発表・討論の機会を提供する。

(日時) 2006年11月6-8日(8日はエクスカージョン)

(場所) 仙台国際センター 萩

(プログラム)

- ・オーラルセッション(6日の9時~7日昼)
 1. 分子生物学と育種
 2. 生理学的アプローチ
 3. 土壌科学と生産技術
- ・ポスターセッション(7日午後1時~3時)
- ・エクスカージョン(8日): フィールドセンターと古川農試

(参加予定者)

国内外から約150人

(お問い合わせ先)

東北大学大学院農学研究科

担当: 國分牧衛 (tel/fax 022-717-8940、kokubun@bios.tohoku.ac.jp)

三枝正彦 (090-455-42700)